

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：25302

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K23343

研究課題名（和文）感化院・少年教護院における障害児教育実施への模索 地域社会との連携に着目して

研究課題名（英文）Searching for Special Education in Reformatory Before WWII: Cooperation With the Local Community and School Education

研究代表者

立浪 朋子（TACHINAMI, Tomoko）

新見公立大学・健康科学部・講師（移行）

研究者番号：30845392

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：戦前期の感化院・少年教護院が法の定める不良行為だけでなく、障害のある子どもへの教育を模索した過程を、地域社会や学校との関わりに着目し検討した。なかでも、早くから地域社会の支援を受け後援機関を設立した石川県および富山県の感化院・少年教護院に焦点を当てた。その結果、これらの感化院・少年教護院が国の政策とは異なる独自の処遇を目指すにあたっての、地域社会の支援の活用や学校教育との差異化について明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、感化院が独自に目指した処遇の実現にあたり地域と連携した過程を明らかにした。石川県育成院では学科が困難な子どもにも可能な筆工を教示し、彼らの職業的自立を目指した。その実現にあたり筆の受注や教師を地域から得たほか、後に後援機関を活用し職業教育を実施した。後援機関は、少年教護法の時期にそのために留まらない保護の実現にも活用された。感化院または少年教護院では不良行為だけでなく「精神薄弱」児への特別な教育を実施したことが先行研究から明らかになっているが、その実現にあたり予算で得られない経費や人材を地域社会から確保するなど、地域との連携を本研究では示している。

研究成果の概要（英文）：The project analyzed how a regional reformatory realized special education for students, particularly in reformatories in Ishikawa and Toyama which established support organizations in the early days of them. It indicated how the community functioned when the reformatory aimed to give original treatment which was different from the national policy, to students.

研究分野：特別支援教育、障害児教育史

キーワード：感化院 少年教護院 不良少年 石川県 富山県 障害児教育 地域社会 学校

1. 研究開始当初の背景

近年、非行少年には知的・発達障害のある子どもが多いことが指摘されている。実は、戦前に不良少年を教育した感化院(昭和9年から少年教護院に改称)でも多数の「精神薄弱」児が在院していたこと、彼らへの特別な教育が実施されていたことが先行研究でも明らかにされている。たとえば、感化院における精神薄弱児に対する特別な教育の先駆例として、兵庫県、大阪府の感化院が1920年代以前から障害児のための特別学級を設置した。

戦前において我が国では精神薄弱児のための学校はごくわずかであり、当時の感化院長の中には感化院で彼らの教育を研究することに積極的な発言も見られた。そのため、各地の感化院・少年教護院では彼らへの適切な教育を目指す必要があった。

2. 研究の目的

本研究では、感化院・少年教護院が障害のある子どもへの教育を模索した過程を、地域社会や学校との関わりに着目し明らかにすることを目的とする。なかでも、早くから地域社会からの支援を活用していた、石川県の感化院・少年教護院である石川県育成院、富山県の感化院・少年教護院である樹徳学園を事例とする。具体的には、石川県育成院および富山県の樹徳学園において、内務省等の理念に留まらず独自に実現しようとした教育内容、実現する上で手段、模索の内容を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は歴史的研究である。研究方法は文献研究とする。

石川県育成院および樹徳学園が、内務省等の当初の理念にはなかった障害児教育の実施に繋がる独自の教育を模索、実現するにあたり、いかなる手段を取ったのかを、各感化院・少年教護院における課題の顕在化や学校・地域社会との関係から明らかにする。

具体的には、感化院の職業教育、一時保護に着目し、感化院・少年教護院の教育内容について、内務省の理念等と石川県の感化院の実際の教育内容の比較を行う。また、石川県育成院、樹徳学園における地域社会、学校との連携の意義を明らかにする。資料は感化院の施設要覧、全国会議の会議録、沿革史、職員会議議事録、後援機関資料等を用いる。

4. 研究成果

- (1) 「戦前期石川県の感化院における実科の特徴とその意義」『福祉心理学研究』18巻1号、2021年。

石川県の感化院である石川県育成院において、内務省や全国の感化院で主流であった人格や勤労精神の育成といった理念とは異なり、職業的自立を目指した実科を具体的に実現した過程について考察した。石川県育成院の実科では全国の感化院同様、農業が実施されたが、それ以上に筆工(製筆)を重視した。筆工は学科の苦手な子どもでも技術の習得が可能であり、将来の職業とすることができると考えられていた。このような職業教育を目的とした実科の実現にあたっては、受注、教師の確保、職業教育の継続などにおいて地域社会からの支援を活用していた。

- (2) 「少年教護院における一時保護実現に向けた過程 育成院および樹徳学園を事例として」『新見公立大学紀要』41巻、129 - 133頁、2020年。

少年教護院において一時保護がどのように実施されたのかを考察した。石川県、富山県の少年教護院のいずれも、少年教護法第十四条に定められた一時保護に留まらない内容の保護を目指し、同法の対象とならない子どもにも一時保護を行おうとした。一時保護の実施にあたっては、少年教護院の後援機関が事業主体、実施場所として活用された。府県や少年教護院の事業としては困難であった処遇が、後援機関の事業、後援機関への委託であれば少年教護法に縛られないため可能となったと考えられる。

- (3) 「国民学校令施行期における「精神薄弱児」児を対象とした養護学級の実態 東京の養護学校を事例として」『新見公立大学紀要』40巻、141 - 146頁、2019年。

少年教護院と学校との関わりにおいて、特別学級が密接な関係を持つと考えられる。本論では国民学校令施行期にも「精神薄弱」児を対象とした養護学級が複数残っていた、東京の養護学級の実態を検討した。そこでは、「精神薄弱」児への教育継続の模索、感化院が少年教護院と改称して数年を経てもなお、隣接分野と考えられる養護学級教員からも「感化院」と呼ばれていたこと、不良少年が養護学級の対象外と考えられている状況がわかった。

- (4) 「昭和戦前期石川県の感化院における地域社会との連携」2020年3月障害科学学会(Web発表)

2020年3月の障害科学学会で発表した。なお、新型コロナウイルス流行に伴い発表形態がWeb

発表に変更された。

石川県育成院の昭和初期における地域社会との連携の状態を検討した。石川県育成院職員はこの時期、学校教員、方面委員、行政関係者、託児所保母、住職、篤志家が集まる会議という機会を得た。そして、不良児の早期発見、早期の教育・保護の必要性およびその手段として学校や方面委員など地域の人材との連携が有効という認識を背景に、彼らに対し感化院への協力を呼びかけた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 立浪朋子	4. 巻 40
2. 論文標題 国民学校令施行期における「精神薄弱」児を対象とした養護学級の実態 東京の養護学級を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 141-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 立浪朋子	4. 巻 41
2. 論文標題 少年教護院における一時保護実現に向けた過程 育成院および樹徳学園を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 129-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 立浪朋子	4. 巻 18巻1号
2. 論文標題 戦前期石川県の感化院における実科の特徴とその意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福祉心理学研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 立浪朋子・岡典子
2. 発表標題 昭和戦前期石川県の感化院における地域社会との連携
3. 学会等名 障害科学学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------